

座談会

「たしの県勢を語る」

出席者 藤原 浩 角田 光男
 (岩手日報社) (共同通信社)
 村上 宏 小原 重雄
 (岩手放送) (県企画開発室 参事)

司会 きょうは、お忙しいところ、どうもありがとうございます。

県では、県政運営の基本的方向として第一に、生活環境の整備と福祉の向上などによって、県民の暮らしを守り、家庭に幸せをもたらすこと。第二に農林水産業、商工業の振興、産業基盤の整備などによって、住みよい豊かな郷土を築くこと。第三に教育文化の向上により、未来の担い手である青少年に夢と希望を与えることなどの三点を掲げ、具体的には、六つの重要政策を柱として、県政の推進を図っているところでです。

本日は、県政記者として日ごろ活躍の皆さんから、県政についていろいろご意見を伺い、今後の行政運営に役立たせたいと思います。

ことしの県政は、ご承知のように社会、経済情勢のきわめて厳しい中でスタートしたわけですが、まず、ことし一年を振り返って総体的な感想から伺いたいと思います。

ことしの県勢を語る角田さん、村上さん、小原さん、藤原さん(左から)。



かなり慎重に選ばなければならなくなる。そういう面で県の幹部もだいぶ苦慮したと思います。

また、住民のニーズに応える県政の姿勢というものが、このような経済状態になればなるほど求められるのではないかと。そういったことで、県政懇談会など県民との接触が活発になったことはよかった。ことし一年を土台にしたこれからの県政運営というものが、大きな意味をもってくると思いますね。

角田 私は、角度を変えて自然災害の面から考えたんですが、ことしの夏、青森、秋田、山形が豪雨の洗礼を受けた。それへの対応の仕方によって各県の力の程度が他動的に引き出されたと見えています。

期待がもたれる 北上山系の開発

司会 それでは一月以降の具体的な問題をとりあげながら、ことしを振り返ってみたいと思います。

藤原 二月に食糧供給基地の確立をめざす農用地の有効利用運動や畜産危機打開の対策、八月に総合農政の施策が打ち出されましたね。本県は、食糧供給

基地をめざしてこれまで努力してきた。このことは先見の明があったと評価します。

しかし、先年、農業地域指標等が出され、本県の農業の方向づけは一応されていますが、基盤の整備やその先になる流通の問題等が、なにか不安定な形での感じがする。

例えば、せつかく肉牛を生産しても、それが流通の段階で高く評価されないという問題。このへんに県の畜産農政にかかわらず、食糧農政全体の欠陥が象徴されているように思います。

村上 農政問題が出されましたが、粗飼料の問題にしろ、北上山系開発にしろ、一応軌道に乗りつつあるわけで、食糧供給基地をめざし総合的な意味から、ようやく一歩ふみ出したといえると思います。ただ、米一つとってみても、ことしは四十八万トという史上最高の大豊作であったが、今度は余り米の問題で苦慮しなければならぬ。やっぱり行政のこまやかさが必要になってきている気がします。

角田 そうですね。食べ物を作る場合、安定供給をすることと、消費者の口になじむ物を作ることが必要だと思います。

角田 確かに天災融資法の適用基準を突破する被害もありましたが、そういうことは言えると思います。

司会 ことし、よその県の自然災害はひどかったですからねえ。

角田 まあ逆に言うとうと、ことしは平穏だったけれども、山地防災など保全に対する点検はこれで十分であるか、と言うことができて、と思います。

'75県勢ビッグテン

- 1 昭和50年国勢調査の結果、県人口が増加傾向に転じる。
 - 2 統一地方選挙が行われ、第4期千田県政スタート。
 - 3 三陸縦貫鉄道久慈一帯間開通、国道46号仙岩トンネルの貫通など幹線交通網の整備進む。
 - 4 「自然保護の祭典」第17回自然公園大会が行われ、自然保護の意識高まる。
 - 5 大会が鉱業事業団と日本下水道事業団の盛岡事務所が相次いで開設されるなど、北上川の清流化恒久対策さらに前進。
 - 6 自然災害を克服、稲作は史上最高の豊作となるなど、農業生産大い上がる。
 - 7 消費者保護条例の制定、消費生活課の新設など、消費者行政を強化。県内の地価、物価も沈静化に向く。
 - 8 コロニー(精神薄弱者総合援護施設)や県立博物館の建設地決定、情報処理教育センターのオープンなど、福祉文教施策前進。
 - 9 北東北の複合流通拠点をめざす岩手流通センターが完工。
 - 10 第3次県勢発展計画の策定を県総合開発審議会に諮問。世論調査や懇談会の開催など民意は握りに努力。
- (注)これは、県の各室部局などから出された県勢項目を序議で検討し、決定したものです。

ようか。海洋規制が厳しい方向へ向かっている中で本県の役割といった点など。

藤原 確かに海洋法の関係で本県漁業のあり方が再検討される時期にきている。従って耕す漁業も、もう一歩進んで磯付きの漁業というか、種市で始まっている大規模増殖場開発事業のようなものを、もう少し全県的に広め、魚が住みやすい環境を築いていく必要がある。と同時に内水面漁業の振興も、今後さらに考えてほしいと思います。

新幹線の工事は各支線と並行で

司会 次に、交通網の整備と高速化時代の対応といったものを話題にしたいと思います。

藤原 三月に田沢湖線の電化起工式、七月に三陸縦貫鉄道の久慈―普代間の開通がありましたね。私は、ここの夏休みに田野畑、普代に足を伸ばしたん

ですが、この区間が開通したことで、高校進学率も高まるでしょうし、経済交流も進む、さらに観光客の入り込み具合もかなり良くなる。

やはり一日も早く全線開通して、地域の文化、経済を高めなければならぬんだなあと感じました。田沢湖線も電化されると大幅に時間が短縮される。高速化時代、必ずしも新幹線だけでなく各支線の整備も並行して進めなければと感じました。

村上 新幹線の開業の遅れで県勢発展計画の見直しをしなければならぬとすれば、県に与えた影響は大きい。対応の仕方も慎重にしなければならぬでしょうね。

藤原 たてまえからいけば早くできて欲しい。本音からいけば対応が遅れていただけに少しの遅れはむしろ救いではなかったかと思えます。

とにかく、山陽新幹線開業の時の岡山は、対応が大変遅れていると言われましたが、本県は駅前再開発にしろ、それに輪をかけてような遅れだから……。

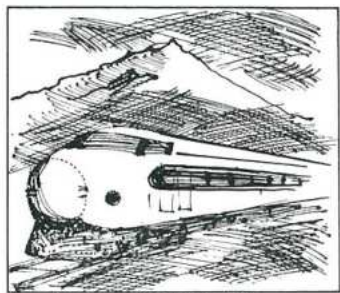
村上 そう。新幹線を早く通すことだけに力が入って、対応の方が遅れている。並行的にや

ることが大事ですね。

藤原 岩手の県民性かも知れないが、行政に先行してもうわなければ、自分たちで動かないという面がみられる。もう少し、一般の県民、特に団体の人たち

の真剣な取り組みもあってよいと思います。「御上の言うことは聞こう」という積年の弊が出ているんでは、と思うんですが。ただ、最近みられる予算獲得とか大宮以南の問題で、いわゆる官民一体となって効果をあげているのは大変結構なことだと思います。今後もうこういう努力が大切ですね。

角田 私の前任地であった仙台の新幹線対応についていうと、市や商工会議所、地元財界などから多くの対応策が出され、それを調整するのが困難なくらいでした。



高速交通時代も間近。

仙台は、商業都市的な性格が強く、それに比べると盛岡は農業圏をバックにした町という感じで、商業都市という性格がそれほど強くない。

農家の方たちも、新幹線は人と情報の流通媒体、大量の農産物が動くのは東北縦貫自動車道だといって、むしろ道路の方に期待している。このへんも新幹線の対応の遅れの一因なのかなあと思ったりしています。

冬の観光にも力を消費者行政はヒツト

司会 高速化時代の本県の観光についてはどうですか。

藤原 今までは自然景観がよく、施設の立派なところがあれば、それなりに観光客が集まってきた。現在は施設があまり立派でなくても自然環境がよく、そこへの交通機関があれば集まってくるようになっていく。

また、自分のところだけでなく、他県へ観光客を流してやる配慮も必要であり、そうした有機的なつながりのなかで、岩手は岩手らしい観光施設の整備というものを考えていけばよいと思います。

村上 結局、岩手の売り物は自然と人情。気軽にゲタバきで

行ける所はどこか、といった時岩手の名前が出るような観光行政が必要だと思います。人工的なことはあまり必要ないが、道路網の整備はしなければならぬ。それと、冬の観光客の受け入れ体制の整備でしょうね。

司会 高速化時代における農林水産物の流通問題にちょっとふれていただけますか。

村上 本県は、三陸海岸がありながら内陸部に入ってくる魚が高い。流通の問題では、まだまだ遅れていると思いますよ。このようなき、消費者を大切にしようということで消費者行政の窓口をつくった。これはこ

としのヒツトだったと思います。藤原 県内をみると都市近郊型の農村は比較的裕福なんです。そういうことから言えば、高速化時代を迎えることによって、県内の農村部は都市近郊型への移行は可能となる。その点からいくと東北縦貫自動車道は県農業にプラスになると思います。

ただ、県内にはさまざまな農産物がありますが、それを大都市へ向けて流せるだけの量とか

品質が備わっていない。

やはり、一つの産地化を図り、統一した銘柄で大都市へ流す努力が必要だと思いますね。

司会 次に商業関係とか、工業化についていかがですか。企業誘致も含めて……。

村上 本県の企業誘致は、大きな面積があり、労働力が豊富だということ、有利な点がありますね。

角田 東京から縦貫道走ってみると、栃木や福島など東京に近い所だといふ企業誘致をしている。特にこのような経済情勢の中で、果たして岩手まで工場がくるのかなあという感じを



粉雪がすばらしい冬の八幡平。

受けますけど……。

藤原 県内の状況を見ると地域に活力のある所は、ある程度工業化が進んでいる。私は陸前高田市と北上市の両方に住んでみて、そう感じました。

北上市は、工業団地などがあって活力がある。それならどの程度企業誘致をすればよいか、これはなかなか難しい問題ですが、その配置とか程度はやはり行政の面の決断にかかってくると思います。

村上 どの企業がいいかとなるとかなり選択する必要がある。良い自然環境の中で仕事できることも大きな魅力ですがね。

新事業の選択よりきびしく

藤原 交通の話題でも一つ、花巻空港の拡張問題がありましたね。

私は、この問題を考えるとき、何か花巻空港の原則論と財政を中心とした方法論がごちゃごちゃになっているので、どれを選択するか難しい時期にきていると思う。確かに県内の高速交通体系の整備の面からいけば、花巻空港は必要である。しかし、財政の面から大きな不安が生まれて

きて、これが花巻空港否定論みたいなものに発展しているのではないかと感じます。

やっぱり県は推進する立場ですから、財政的な面の見直しをはっきりさせ、安心できるプログラムを作っていくかなければならないと思えますね。

村上 私は、なんといっても対話不足だと思います。とにかく、反対している人たちと信頼関係がなければダメなんです。

角田 大きな計画、たとえば成田空港とか都市開発の問題でもそうなんです。その対象地域に住んでいる人は計画の実現性とか意味より、現在の生活を今後も続けていきたいという気持ちの方が非常に強いと思う。ところが計画者としては計画を実現させたいだろうし、それなりの利益があるから推進しようとする。計画というものは、状況に見合わせて計画をゆすっていったて実現すべきだと思いますね。

力強い福祉の対策よみがえる北上川

司会 福祉の関係では六月にコロナー(精神薄弱者総合援護

施設)の建設地が一戸町中心地区に決まりましたが……。

角田 いやいよいよ五十一年度から着工されることは、県政の具体的な成果ではないかと思えます。

まあ、東北の中で秋田、山形はすでに完成しているようですよ。この計画が遅れないで進むと県下に約五千人の精神薄弱者の方がいるそうですが、在宅で治療をされている方などには非常な福音になるでしょうね。

村上 それから、在宅児童に対する巡回指導バスや六十五歳以上の独り暮らし老人に対する医療費の十割給付など、非常に厳しい財政の中で福祉にはかなり力が入られたと思います。

藤原 確かに財政難ではあるが、こういう面には力を注ぐべきでしょうね。

角田 市町村広報紙などを見ていると、福祉に手厚く施策をほどこしている市町村はよいけれど、そうもいかない市町村もあって、そういうところは県政レベルで補っていかなければ。福祉が片手落ちになる恐れがあると思えましたね。

司会 生活環境の問題については？

村上 北上川の清流化にメド

のついたのは大きい。藤原 盛岡市内の夕顔瀬橋あたりでアユが釣れる。市役所前の中津川にはサケがのぼってくる。全国の都市でもめずらしいことですよ。

角田 象徴的なことですね。岩手県では、北海道より条件の悪いところで一生懸命サケの放流をしている。これは内水面漁業の振興にもつながるし、大変良いことですね。

国体時のムードでそだてたい連帯感

司会 教育、文化の面はいかがでしょう。九月に県立博物館の建設地も決まりましたが。

村上 教育は非常に間口が広くて苦勞する点が多いと思いますが、ゴルフデンプランをやり出して、最初は順調に進んだが、最近どうも停滞している感じを受ける。やはり、国体のあの盛り上がりがあったムードを大切にしたいですね。

国体の時は、県民運動という形で行うような目的をつくり、皆んながそれへ向かった。ところ

